ＥＳＤ推進ネットワーク全国フォーラム参加報告書

期日：２０１９年１２月２０日（金）２１日（土）

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター

参加者：深井恵子、田村満理

プログラム内容：

１２月２０日（金）

セッション１：ＥＳＤの国際動向・国内動向

セッション２：パネルィスカッション

・ＳＤＧｓを地域で達成していくための人づくりとそのためのネットワークのさらなる展開

　（パネリスト）教育委員会の立場から　齋藤修一（只見町前教育長）

　　　　　　　　学校の立場から　　　　輪湖みちよ（墨田区立両国中学校教諭

　　　　　　　　社会教育の立場から　　山口慶子　（島根県立しまね海洋館）

　　　　　　　　自治体の立場から　　　東福光晴 （富山市環境政策課長代理）

　　　　　　　　企業の立場から　　　　池内計司　（IKEUCHI ORGANIC（株）社長

（モデレーター）及川幸彦（東京大学大学院教育学研究科付属海洋教育センター主幹研究員）

セッション３　グループディスカッション

　・地域でＥＳＤを広め、深めるための課題と工夫

（ファッシリテーター）松原裕樹（ひろしまＮＰＯセンター事務局長）

１２月２１日（土）

セッション４：分科会：「ESD for 2030」を見据えたESD推進のあり方

分科会１　新しい学習指導要領とESD実践

　話題提供　１．井原田晃（竹富町立上原小学校長）

　　　　　　２．建元喜寿（筑波大学付属板戸高校WWl推進委員長・主幹教諭）

分科会２　企業がめざす地域におけるSDGs人づくり

　話題提供　１．坂本眞紀　（味の素広報部ダイレクトコミニュケーションG長）

　　　　　　２．井上紀子（花王株式会社ESG活動推進部マネージャー）

分科会３　ユースと共に進めるマルチステークホルダーの連携

　話題提供　１．大貫萌子（慶応義塾大学２年/SDGs-SWY）

　　　　　　２．神垣匠（岡山県環境保全事業団環境学習センター「アスエコ」

分科会４　体験活動を提供する組織内ESD意識醸成

　話題提供　１．渡邊剛志（国立青少年教育振興機構本部総務企画課長補佐）

　　　　　　　　樋口拓（国立青少年教育振興機構本部調査広報課長補佐）

　　　　　　２．鈴木雄介（伊豆半島ジオパーク推進協議会専任研究員）

分科会５　AI等の技術革新と教育・人材育成について考える

　話題提供　１．秋永名美（株式会社リバネス）

セッション５　全体総括

報告

さて、「ESD 推進ネットワーク全国フォーラム」に参加した感想を以下に報告させていただ きます。 今回取り上げられたテーマ「SDGs を地域で達成していくための人づくり」とあります。 私は茅野市の教育委員を１期務める中で、人づくりはまちづくり、又、生きる力を育むこと になり、まさに茅野市教育方針の「次世代を担うひとづくり」に繋がるということを強く意 識してきました。 そして、茅野市の各学校に出向き、地域の特色を知り、学校と地域との連携の必要性、学校 間の連携のあり方、大切さを学んで参りました。 そして今は、民生委員、中学校コミュニティースクール運営協議会地区委員（評議委員）と して引き続き学校教育に携わらせていただいています。 今年はユネスコ会員になり５年目ですが、どの会議に参加してもほとんどの方が「ESD」も 「SDGs」を耳にしたことがないとおっしゃいます。 現在ボランティアで活躍されている方々は多様なご経験を持ち、地域に根付いたネットワ ークを活かす６０代から７０代のシニア層の方々ですが、「コミュニティースクール？カタ カナではなく、もっと分かりやすい言葉にしてほいしという意見」が多々寄せられています。

 人生 100 年時代といわれる中、シニア層を巻き込む事で達成できることが益々増えてくる と思いますので、こうした実際にご協力くださる方々にもっと分かりやすく親しみやすい 概念を掲げることの必要性も感じています。 この 2 日間の学びを通して私達がユネスコ会員として改めて強く思うことは、 ・地域の方々に ESD, SDGs という概念をより分かりやすい形で広め、理解を深めてもらう ・地域の方々自ら課題をみつけ、自分事として課題解決に取り組むことができるような活動 を行う ・ユネスコ会員内では、さらに ESD、SDGs を意識した活動に繋げるアクションを起こす （具体的どうやって？）

・ESD の推進拠点であるユネスコスクール加盟校を増やすために、学校に対する啓発活動 も積極的に行う

 最後に二日間大変有意義な時間を過ごすことができましたことに感謝申し上げます。

（報告者　田村満理）